# 調査レポート

## 三重県経済の回顧と展望

~三重県経済における中長期的なヘルスケア産業の発展~

2013年度の三重県経済を振り返ると、製造業における生産活動の持ち直しが景気の牽引役となったほか、消費増税前の駆け込み需要や観光の盛り上がりが押し上げに作用し、回復基調を辿りました。一方、今後を展望すると、短期的には足もとの回復基調が続くとみられるものの、中長期的には、製造業生産拠点の海外シフトや国内マーケットの縮小を背景に、生産活動の伸び悩みも懸念されます。

そこで今回は、2013年度の三重県経済を企業部門、家計部門の双方から振り返り、あわせて、2014年度の三重県経済を展望します。また、今後の三重県経済を中長期的に支えていくと期待される医療や介護など、ヘルスケア産業の動向について確認し、さらに、三重県の主要産業である製造業との関係性について探ります。

## 要約

## 1 2013年度の三重県経済の回顧

2013年度の三重県経済を振り返ると、企業部門において、生産活動の持ち直しが景気の牽引役となったほか、家計部門においては、消費増税前の駆け込み需要や伊勢神宮の式年遷宮を中心とする観光の盛り上がりがみられ、全国と比べて回復の度合いが強いものになったと評価できます。

## 2 2014年度の三重県経済の展望

2014年度の三重県経済を展望すると、企業部門では、製造業の在庫調整の一巡に伴う生産の持ち直しが見込まれるほか、設備投資も収益改善を背景に増加していくことが期待されます。さらに、家計部門でも、所得環境の改善から消費が底堅く推移すると考えられ、景気は引き続き回復基調を辿る見通しです。

## 3 全国・三重県におけるヘルスケア産業の動向

今後の三重県産業における新たな基軸の1つとして、医療・福祉・介護サービスの提供や医療機器の製造といった「ヘルスケア産業」の発展が望まれます。わが国における医療・介護サービス産業の規模は、長期的な拡大傾向にあり、三重県においても県内総生産の9.3%に相当する水準まで拡大しています。

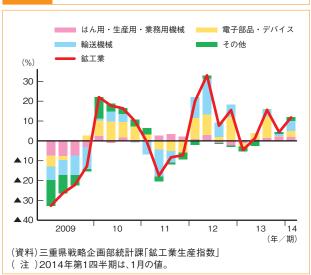
さらに、医薬品・医療機器の製造など、ヘルスケア産業における製造業についてみると、医療・介護サービス産業の製造業に対する影響度が比較的強いことや、医療機器製造業の付加価値率が高いといった特徴がみてとれ、ヘルスケア産業では、三重県の強みであるものづくりの分野も成長産業として期待できます。

### 1.2013年度の三重県経済の回顧

#### (1)企業部門

2013年度の三重県経済を振り返るにあたり、ま ず、企業部門の動きをみてみると、製造業における 生産活動の持ち直しが景気の牽引役となりまし た。すなわち、三重県における鉱工業生産指数の 推移をみると(図表1)、2013年度は前年比ベース で概ねプラス基調となり、直近データである2014 年1月は前年比+11.8%と2ケタ増を維持しまし た。水準(季節調整値、2010年=100)でみても、 123.8と比較可能な2008年1月以降における最大値 となっており、県内の生産活動はリーマン・ショッ ク以前の水準まで持ち直したことが窺えます。





主要業種の動向を確認すると、まず、電子部品・ デバイス工業は、四日市市にあるNAND型フラッ シュメモリ工場において、最先端製品を量産する 動きがみられたほか、亀山市にある液晶パネル工 場においても中国の大手携帯電話メーカー向け に、新型パネルのスマートフォン向け製品を生産 するなど、三重県に所在する大手メーカーの生産 拠点が増産体勢となったことを受けて、概ね上昇 基調となりました。

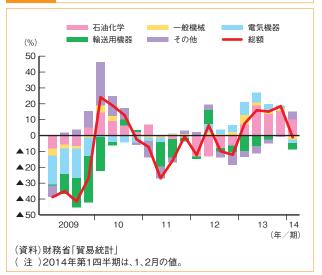
次いで、輸送機械工業も、2013年11月に発売と なった軽乗用車を始め、鈴鹿市の自動車組立工場 で生産されている軽乗用車シリーズの販売が好調 となるなど、国内乗用車需要の高まりがプラスに 作用し、生産指数は底堅く推移しました。

このほか、はん用・生産用・業務用機械工業や化

学工業においても、為替における円安基調やアジ アの底堅い経済成長を背景に輸出が持ち直し、県 内生産の押し上げに寄与しました。

三重県最大の貿易港である四日市港からの輸 出額を概況品別にみてみますと(図表2)、2013年 度は、前述の自動車組立工場が国内軽乗用車の生 産にシフトしたこともあり、輸送用機器が減少と なったものの、四日市コンビナートに所在する化 学メーカーがアジア生産拠点への供給を強化し たことから、石油製品や有機化合物など石化関連 が増加傾向となりました。このほか、電気回路な どの電気機械や原動機などの一般機械も、円安や 海外需要の持ち直しを背景に増加基調で推移し ており、こうした外需の追い風が、三重県経済の 主力産業である製造業を下支えしたといえます。

#### 図表2 概況品別にみた四日市港通関輸出額<前年比>



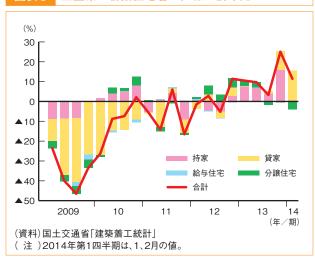
#### (2) 家計部門

#### ①消費増税前の駆け込み需要

次に、家計部門から三重県経済の動向について みると、景気持ち直しに伴う消費者マインドの改 善に加え、2014年4月の消費税率引き上げ(5% → 8 %) を前に、2013年秋頃から住宅建築や高額 な商品の購入における駆け込み需要が消費の押 し上げ要因となりました。

まず、住宅投資の動向について、三重県の新設 住宅着工戸数の推移をみると(次頁図表3)、2013 年度は、全体の約6割を占める持家を中心に増加 基調を辿り、2013年10~12月期に前年比+23.9% と大幅な伸びとなりました。この背景には、2013 年9月末までに契約した注文住宅について、2014 年4月以降の引き渡しとなっても税率5%が適 用されるという経過措置が取られるなか、持家 や、賃貸アパートなどの貸家を中心に駆け込み需 要が生じたことが指摘できます。

#### 三重県の新設住宅着工戸数<前年比> 図表3



次いで、高額な商品の代表的なものである乗用 車の販売台数について(図表4)、2013年度の推移 を振り返ると、年度初めから夏頃までは、前年の エコカー補助金制度(2011年12月~2012年9月) による押し上げ効果の反動がみられたものの、後 半には増税前の駆け込み需要に加え、自動車メー カーの新型車投入などもあり、2013年10~12月期 に前年比+23.9%、2014年1~3月期に同+ 20.9%と大幅な増加となりました。

こうしたもと、2013年度の新車乗用車販売台数 は99.654台と10万台に迫る水準まで拡大しまし た。これは、比較可能な2003年度以降で最も多く、

#### 三重県の新車乗用車販売台数<前年比> 図表4



2013年度における三重県の消費に対し、消費増税 前の駆け込みが与えた影響は非常に大きいもの であったと判断できます。

#### ②観光

さらに、家計部門における三重県特有の動きと して、2013年10月に伊勢神宮で斎行された「第62 回式年遷宮」を中心に、観光が県内景気の回復に 寄与したことが挙げられます。

「式年遷宮」とは、伊勢神宮の内宮(皇大神宮) と外宮(豊受大神宮)の正殿・別宮を建て替え、御 装束神宝を新調し、神様にお遷りいただく神事 で、20年に一度執り行われる伊勢神宮最大の行 事です。

ここで、伊勢神宮を訪れた参拝者の数を過去に 遡ってみてみますと(次頁図表5)、式年遷宮が執 り行われた年には、古い神殿への最後の参拝、ま た、新しい神殿への初めての参拝のために、多く の観光客が三重県を訪れていることが窺えます。 とりわけ、62回目の式年遷宮が行われた2013年 においては、内宮・外宮あわせて参拝者数1,420 万人と、過去最高を大幅に更新しており、2013 年度の三重県経済における観光の盛り上がり を示す内容となりました。

このように、2013年度の県内観光が大いに盛 り上がった背景には、行政・企業それぞれが式年 遷宮をきっかけに、観光誘客・振興のための様々 な取組を行ったことが指摘できます(次頁図 表 6)。

まず、行政の取組をみると、三重県では複合的 な観光誘客キャンペーンとして、「三重県観光 キャンペーン~実はそれ、ぜんぶ三重なんです! ~」を2013年4月から展開しています。その中 心企画である「みえ旅パスポート(本誌裏表紙 参照)」は2014年3月に発行数20万部を突破し ており、三重県への観光誘客に対するキャン ペーンの成果もみられました。

また、企業においても、近畿日本鉄道では 2013年3月より観光特急「しまかぜ」を名古屋-伊勢志摩間と大阪 - 伊勢志摩間で運行してお り、予約可能な1か月先まで連日ほぼ満席とな るなど、伊勢志摩への観光客に好評を博してい ます。

このほかにも、2013年度には、三重県の首都圏



このように、2013年度の三重 県経済は、消費増税前の駆け込 み需要を始め、安倍政権の経済 政策に伴う公共工事の増加な ど、全国ベースでも指摘されてい るプラス要因が景気回復に働く なか、主要産業である製造業の 持ち直しや式年遷宮を中心とす る観光の回復など、当地域なら ではの要因も押し上げに作用し たため、全国と比較して回復の 度合いが強いものになったと評 価できます。

営業拠点「三重テラス」の開業や志摩市での「日 台観光サミットin三重」の開催など、国内・国外 から三重県への観光誘客に対する取組が積極的 に行われたほか、紀勢自動車道の全線開通を始 めとする交通インフラの整備も着実に進んでお り、式年遷宮関連にとどまらず、観光誘客・振興に 向けた取組が官民で活発に行われるもと、「観光 県」としての三重県の強みが色濃く現れたとい えます。

#### 図表6 三重県の観光関連トピックス < 2013、2014年 >

年	月	主な出来事
2013年	3月	近畿日本鉄道の観光特急「しまかぜ」が名古屋 - 伊勢志摩間、大阪 - 伊勢志摩間で運行開始
	4月	「三重県観光キャンペーン〜実はそれ、ぜんぶ三重なんです!〜」がスタート
	5月	志摩市で「日台観光サミットin三重」が開催
	7月	式年遷宮関連行事の「お白石持行事」に約23万人が 参加
	8月	JR伊勢市駅前の商業施設跡地に温泉旅館 「伊勢外 宮参道 伊勢神泉」 がオープン
	9月	東京・日本橋に三重県の首都圏営業拠点「三重テラス」が開業
	10月	式年遷宮の中核行事「遷御」が内宮・外宮で斎行 三重県と台湾・新北市が観光協定を締結
	12月	2013年の伊勢神宮参拝者数が内宮・外宮あわせて 1,420万人と過去最高に
2014年	3月	紀勢自動車道 (尾鷲北IC - 勢和多気 JCT) が全線 開通
	4月	三重県総合博物館 (MieMu) が開館
	7月	   熊野古道がユネスコ世界遺産登録10周年に

(資料)三重銀総研「三重県経済の現状と見通し」をもとに作成

#### 2.2014年度の三重県経済の展望

2014年度の三重県経済を展望しますと、駆け 込み需要の反動に伴う一時的な消費の下振れが 懸念されるものの、基本的には、堅調さを維持す ると見込まれます。

#### (1)企業部門

まず、企業部門をみると、在庫調整の一巡に伴 う生産活動の持ち直しに加え、これまで低調に推 移していた設備投資の増加が期待されます。

まず、生産活動について、三重県の鉱工業生産 指数と在庫指数の推移をみると(図表7)、足もと の在庫指数は、電子部品・デバイスを含む電気機 械工業や、輸送機械工業を中心に大きく低下して いることが窺えます。生産指数と在庫指数には負

#### 三重県の鉱工業生産指数・在庫指数<前年比> 図表7



の相関関係があり、在庫指数が半年ほど先行していることを踏まえると、今後の生産指数は、在庫指数の低下を追いかける形で上昇していくことが見込まれ、県内製造業は増産基調で推移する可能性が大きいと考えられます。

次いで、設備投資においては、わが国経済の回復に伴う収益改善から、これまで長期間続いていた企業の投資抑制スタンスが緩和していくと考えられます。この点について、東海財務局・津財務事務所が公表した「法人企業景気予測調査」の2014年1~3月期調査結果より、三重県企業における利益配分のスタンスをみると、利益の配分先として「設備投資」を挙げる企業の割合が57.1%(複数回答)と最も高くなっており、リーマン・ショック以降、低調に推移していた設備投資が先行き持ち直していくと期待できます。

もっとも、企業部門に対しては、円安による仕 入価格・エネルギーコスト上昇といった懸念材料 も挙げられ、収益性に対するプラス・マイナスそ れぞれの要因に注目する必要があると言えます。

#### (2) 家計部門

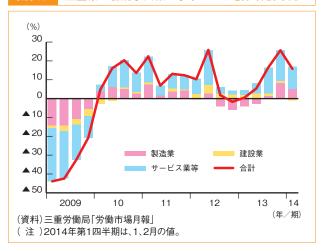
次いで、家計部門は、消費増税に伴う購買意欲の低下や駆け込み需要の反動などから、年度始めにおける一時的な下振れが懸念されるものの、雇用・所得環境の改善に伴い、今後も底堅く推移すると見込まれます。

足もとの雇用・所得環境を確認するうえで、まず、県内ハローワークにおける新規求人数から雇用の動きをみると(学卒・パートを除く、図表8)、2013年度は製造業、建設業、サービス業ともに概ね上昇傾向となっており、企業活動の持ち直しを背景とする幅広い業種の雇用回復がみてとれます。

さらに、所得動向を振り返ってみても、2013年 度は残業時間の増加や賞与増額などを受け、1人 あたりの現金給与額が、緩やかながらも上昇を維 持しており、今後、県内消費の持ち直しに寄与し ていくと判断できます。

以上を踏まえると、2014年度の三重県経済も 2013年度に続き、企業部門、家計部門とも概ね回 復基調で推移すると見込まれます。

#### 図表8 三重県の新規求人数<学卒・パートを除く、前年比>



#### 3.全国・三重県におけるヘルスケア産業の動向

このように、先行きの三重県経済は、短期的には製造業を牽引役に回復基調を辿ると考えられます。もっとも、中長期的にみれば、製造業における生産拠点の海外移転や人口減少に伴う内需縮小を受け、今後、県内の生産が伸び悩むことも考えられます。このため、三重県経済を下支えする新しい産業の発展が求められます。

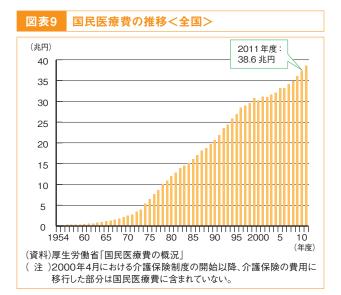
こうしたもと、行政では、国の「日本再興戦略」 や三重県の「みえ産業振興戦略」において、医療・福祉・介護関連産業やクリーンエネルギー産業、 農林水産業などの分野を成長産業と位置づけ、 新たな市場の創造に向けた戦略に取り組んでいます。

そこで以下では、成長産業のうち、医療・介護サービスの提供や医薬品・医療機器の製造など、医療・福祉・介護に関わる産業を広く「ヘルスケア産業」とし、全国・三重県における医療・介護サービス産業の動向や、ヘルスケア産業における医薬品・医療機器製造業の動向をみてみます。

#### (1) わが国における医療・介護サービス産業

まず、ヘルスケア産業の基幹となる医療・介護 サービス産業について、その産業規模を全国ベースでみると、長期的な拡大傾向にあります。

すなわち、保険診療の対象となり得る治療に要した費用である「国民医療費」の推移をみると(次頁図表9)、2011年度には38.6兆円と過去最大となりました。これは、国内総生産(2011年度:473.7兆円)



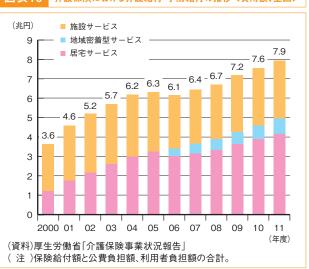
#### の約8%に相当する水準です。

さらに、2000年4月に導入された介護保険制度 について、介護給付(要介護認定者への保険給付) と予防給付(要支援認定者への保険給付)に自己 負担分を含めた費用額の推移をみると(図表10)、 2011年度は7.9兆円と、制度開始時(2000年度:3.6 兆円)の2倍強まで拡大しています。

介護サービスの種類別にみると、訪問介護 (ホームヘルプ)など居宅サービスへの需要が拡 大しているほか、認知症対応型共同生活介護(グ ループホーム)など2006年に新設された地域密着 型サービスが全体の押し上げに作用しているこ とが窺えます。

このように、わが国経済における医療・介護 サービス産業の割合は、年々高まっていると判断 できます。

#### 介護保険における介護給付・予防給付の推移<費用額、全国>



#### (2) 高齢化の進行

わが国の医療・介護サービス産業が拡大してい る背景には、65歳以上人口、いわゆる高齢者人口 の増加が指摘できます。

総務省「国勢調査」より、高齢者人口の推移をみ ると(図表11)、2010年に2.925万人と、20年前 (1990年:1.489万人)の約2倍まで拡大しており、 高齢化率(人口全体に占める高齢者の割合)も 22.8%まで上昇しています。さらに、国立社会保 障・人口問題研究所による将来推計人口では(前 掲図表11)、2060年に高齢者人口が3.464万人、高齢 化率が39.9%となり、総人口の約4割が高齢者と なることが推計されています。

こうした高齢化の進行を背景に、医療・介護 サービス産業に対する需要は、今後もいっそう拡 大していくと考えられます。

#### 図表11 65歳以上人口と高齢化率の推移<全国>

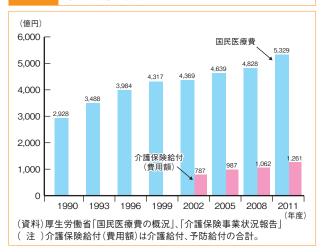


#### (3) 三重県における医療・介護サービス産業の規模

こうしたなか、三重県でも、全国と同様に医療・ 介護産業の需要増加が窺えます。

すなわち、三重県における国民医療費、介護保 険給付に対する費用額の推移をみると(次頁図表 12)、2011年度にはそれぞれ5,329億円、1,261億円 となっており、合計で県内総生産(2011年度:7.1兆 円)の9.3%に相当する水準まで拡大しています。 このように、医療・介護サービス産業に対する需 要の拡大は、三重県経済においても重要なものと なりつつあります。

#### 図表12 三重県における国民医療費および介護保険給付 (費用額)の推移



#### (4) ヘルスケア産業における製造業

以上の通り、わが国全体において需要が高まっている医療・介護サービス産業について、三重県の主要産業である製造業との関係性をみると、両産業のつながりは比較的強いといえます。

すなわち、産業間の連鎖的なつながりをマトリクスで示した「産業連関表」を用いて、各産業の需要が1単位生じた際に必要な製造業の生産量を計算すると(図表13)、医療・保健・社会保障・介護の需要1単位に必要な製造業の生産量は0.27となっており、非製造業16業種のうち建設業、農林水産業に次いで3位となっています。

さらに、医療・保健・社会保障・介護の需要に対する製造業の生産量0.27について、内訳をみると、 医薬品などの化学製品(0.16)が約6割を占めてお

#### 図表13 非製造業の需要が製造業に与える影響<産業別>



り、ヘルスケア産業は、三重県において生産ウエイトの大きい化学製品製造業と深いつながりがあることが窺えます。

また、ヘルスケア産業に関連する製造業として、医療機器・医療用品等の製造が挙げられます。

ここで、経済産業省「工業統計調査」より、ヘルスケア関連機械器具製造業の付加価値率をみると(図表14)、医療用品製造業が69.6%となっており、機械器具製造業137業種全体(31.0%)と比べて倍以上の水準となっています。このほか、医療用機械器具(43.5%)や歯科用機械器具製造業(55.0%)をみても、一般的な機械器具と比べ高い水準となっており、医療機器は高度な技術のもと、高付加価値という強みを持った製品であるといえます。

このように、ヘルスケア産業では、三重県の強みでもある製造業の分野も、今後の成長産業として期待できます。

#### 図表14 ヘルスケア関連機械器具製造業の付加価値率<2012年>



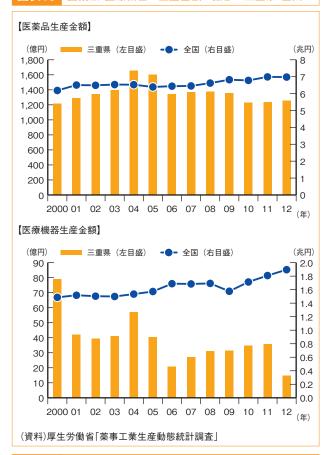
#### (5) 三重県における医薬品・医療機器製造業の現状

もっとも、医薬品・医療機器の生産動向について現状を確認すると、わが国全体における生産拡大の動きに比べ、三重県はやや鈍い動きとなっていることが窺えます。

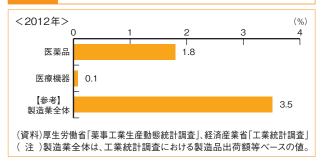
すなわち、厚生労働省「薬事工業生産動態統計」より、全国および三重県の医薬品・医療機器生産金額をみると(次頁図表15)、ヘルスケア産業の需要拡大を受け、全国の生産金額が増加基調を辿っている一方、三重県では、ほぼ横ばい、もしくは一

進一退の動きが続いていることが窺えます。とりわけ医療機器は、全国における三重県の生産シェアが0.1%と、製造業全体に比べ低い水準となっており(図表16)、三重県の医療機器製造業は、まだまだ発展途上にあるといった現状が窺えます。

#### 図表15 医薬品・医療機器の生産金額の推移<三重県・全国>



#### 図表16 三重県における医薬品・医療機器生産金額の全国シェア



## (6) ヘルスケア関連製造業が発展するための課題 と行政の取組

では、今後、三重県のヘルスケア関連製造業が発展していくうえで、どのような課題があるでしょうか。以下では、2つの課題を取り上げ、その課題に対する行政の取組についてみてみます。

#### ①薬事法対応への支援

製造業が医療機器分野に参入する際、大きな障壁の1つが薬事法に基づく規制のクリアです。

例えば、医療機器を製造・出荷する場合、製造には「医療機器製造業許可」、出荷には「医療機器販売製造業許可」が必要となり、製品についても、科学根拠に基づく「品質」、「有効性」、「安全性」の確保について、承認を受ける必要があります。

こうしたなか、製品の承認審査を行う独立行政 法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA)では、開 発初期からの指導・助言を行う「薬事戦略相談」事 業を2011年7月から開始しており、審査チームも 含め、基礎研究から実用化までの相談について応 じています。

#### ②医療ニーズと技術シーズのマッチング

医薬品や医療機器の開発を成功させるうえで、 必要となるのは、医療や介護の現場における課題・ニーズの把握です。

ヘルスケア分野に参入する際、いくら高い技術を持つ製造業であっても、医療現場でどのような技術が必要とされているのか、自社のどのような技術なら課題解決に対応できるのかが判断できなければ、開発は困難なものとなります。

三重県では、医療機関や老人ホーム、薬局などでのニーズ調査を実施し、ウェブ上で公開するといった取組を行っており、こうした医療ニーズと技術シーズをマッチングを通じて「医工連携」による新しい価値の創造を支援しています。

三重県では、2002年から医療・健康・福祉産業の振興に向けた「みえメディカルバレー構想」がスタートしたほか、2012年には、地域活性化戦略特区として「みえライフイノベーション総合特区」が国の指定を受けるなど、ヘルスケア産業振興に対する行政の積極的な取組が見受けられます。

こうした取組のもと、「ヘルスケア」が三重県産業の新しい基軸の1つとして、発展していくことが期待されます。

(2014.4.7) 畑中 純一